

「中讃和牛改良組合」設立に向けた取組み

西部家畜保健衛生所
○森田えり・香川正樹

1 はじめに

農家の高齢化や飼料価格の高騰、TPP 問題など、畜産をめぐる情勢が厳しい中、効率の良い和牛生産や特色のあるブランド化の推進が重要であることから、今回、中讃地域で新たに和牛改良組合を設立したので、その取り組みについて報告する。

2 設立までの経緯

県では、高品質な「讃岐牛」や「オリーブ牛」を生産し、ブランド力を向上させるため、平成 21 年度から優良繁殖雌牛の導入事業を実施している。

一方で、平成 24 年 10 月の長崎全共では、香川県から「種牛の部」に 1 頭、「肉牛の部」に 2 頭出品し、肉牛の部では優等賞を獲得するなど良い成績を取めたが、種牛の部では上位入賞は果たせなかった。

そのような中、平成 25 年 2 月に管内の繁殖農家から「優良子牛の生産地域としての知名度向上と和牛全共の種牛の部への参加資格獲得を目的として、中讃地域で和牛改良組合を設立したい」と家保に要望もあったため、中讃地域の繁殖雌牛群のレベルアップのために「和牛改良組合」の設立を検討することになった。

3 中讃地域の現状

繁殖雌牛は 25 戸で 272 頭を飼養しており、10 頭以上飼養しているのは 11 戸で、1 戸あたりの飼養頭数は約 11 頭である。平成 21 年度から 25 年度までに実施された県の事業で、25 頭の優良繁殖雌牛を導入しており、県畜産共進会でも過去 7 年間で 8 頭が金賞首席となり、そのうち 3 頭が農林水産大臣賞を受賞している。このように、繁殖雌牛のレベルは高いと思われるものの、繁殖農家としての組織は無いため、和牛全共への出品資格も無い状況である。

一方、和牛の肥育農家では、37 戸で 1,524 頭が飼養されており、100 頭以上飼養している農家が 4 戸で、1 戸あたりの飼養頭数は約 41 頭である。枝肉共励会でも、毎回上位入賞する農家が数戸あり、また「讃岐牛飼育モデル農家」は、県全体で 36 戸が指定されているが、うち 11 戸が中讃地域にあり、平成 24 年度は優秀農家の表彰を受けた農家もあるなど、肥育農家のレベルも繁殖農家と同様に高いことから、中讃地域には優良な肉牛を生産できる基盤があると考えられる。

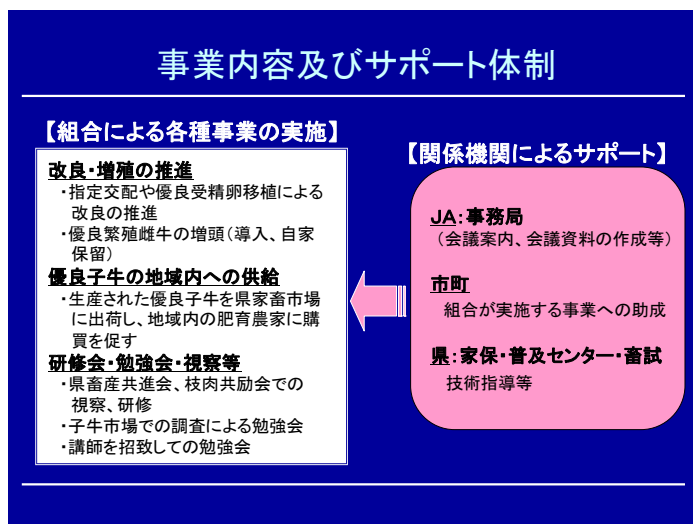
4 「中讃和牛改良組合」の設立

公益社団法人全国和牛登録協会認定の組合が平成 25 年 7 月 1 日現在で全国に 454 組合あり、香川県では高松市と東かがわ市の 2 つの組合がある。

新たに認定を受けるためには「地域内に登録牛が100頭以上飼育されている」「青壮年層に和牛の改良増殖の中核人物がいる」などの基準を満たす必要があり、今回、和牛改良組合の設立を検討するにあたり、まず事前に管内の繁殖農家25戸全戸に対して組合設立の意義を説明したところ、農家からは「良いことなのでぜひ参加したい」「昔から作ってほしいと思っていた」「若い人や家畜市場が元気になる」「組合ができた後のサポート体制もしっかりして欲しい」「組合設立には賛成だが、自分は廃業予定のため参加できない」など様々な意見があったが、19戸の農家で賛同を得ることができた。

そこで、設立に向けた準備として、まず、関係機関の協力体制を確立させるため、JAや普及センターに対して組合設立のための協力を要請し、一方で、中讃地域の農家は3市2町にまたがることから、各地域から組合設立のための発起人を選定し、準備をするようになった。その後、家保に関係者が集まって設立準備会を開催し、設立に向けての規約や役員案、事業内容やサポート体制などを協議した。改良組合が実施する事業内容については、改良・増殖の推進として指定交配や優良受精卵移植、導入や自家保留による優良繁殖雌牛の増頭を、また、生産された優良子牛を地域内の肥育農家へ供給することや、知識習得のための視察、研修や勉強会を実施することとした。サポート体制では、JAが事務局として会議案内や資料の作成などの事務を担当し、各市町は組合が実施する各種事業への助成を、また、県は、家保や畜試、普及センターが技術指導などを実施するという体制で進めることになった。

そして9月26日に19戸の組合員から成る「中讃和牛改良組合」の設立総会が無事開催され、組合長からは「中讃地域の繁殖雌牛群のレベルアップを図り、4年後の宮城全共に出品して上位入賞を果たすことを目標にします」と力強い決意表明があった。また総会の議事終了後には「和牛改良の方向性と改良組合活動について」と題した記念講演があり、組合の今後の活動に向けての知識を得ることができた。



5 事業内容（平成25年度）

今年度に実施した事業では、まず今後の活動計画の基礎資料のための調査として、組合員の飼育牛の名簿や繁殖台帳の作成、和牛改良に関する意向調査を実施した。

意向調査のうち、今後5年間の飼養計画の結果では、平成30年度までの5年間で85頭増加し、1戸当たりの飼養頭数は9.8頭から14.3頭になる見込みであった。

また、組合が実施するそれぞれの補助事業について、組合員の多数が参加予定であり、希望頭数も毎年一定もしくは年々増加が見込まれた。

事業内容(平成25年度)						
○今後の活動計画の基礎資料のための調査(組合員)						
・飼育牛の名簿及び繁殖台帳の作成						
・和牛改良に関する意向調査(飼養計画・子牛を除く)						
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30
戸数	19	19	19	19	19	19
頭数	187	219	236	247	262	272
1戸当たり頭数	9.8	11.5	12.4	13.0	13.8	14.3

事業内容(平成25年度)						
○今後の活動計画の基礎資料のための調査(組合員)						
・和牛改良に関する意向調査(事業への参加意向)						
事業	参加戸数	希望頭数				
		H26	H27	H28	H29	H30
指定交配	13	58	63	65	71	72
受精卵移植	4	5	5	5	5	5
自家保留	16	30	32	27	30	29
県外導入	11	15	14	14	14	14

一方、肥育農家側のニーズを把握するため、管内の和牛肥育農家にも意向調査を実施した結果、農家戸数は減少する可能性があるが、飼養頭数は増加し、1戸当たりの飼養頭数は48.5頭から63.2頭に増える見込みであった。

また、中讃地域から出荷された肥育素牛の購入希望調査では、廃業予定を除く23戸中16戸で購入希望があり、頭数も年間で140～160頭前後が見込まれるということが分かった。

さらに、肥育素牛に求められる血統なども調査しており、結果は今後の改良方針の決定のための参考にする予定である。

その他、来年度以降組合で補助事業を実施するにあたり、組合員からの会費のみで実施するのは厳しいため、組合役員やJA、普及センターと共に各市町に協力依頼に行ったところ、どの市町も前向きに検討するという回答を得ることができた。

事業内容(平成25年度)						
○今後の活動計画の基礎資料のための調査(管内の和牛肥育農家における意向調査)						
・和牛の飼養計画						
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30
戸数	29	23	23	23	23	23
頭数	1,406	1,412	1,427	1,440	1,447	1,453
1戸当たり頭数	48.5	61.4	62.0	62.6	62.9	63.2

事業内容(平成25年度)							
○今後の活動計画の基礎資料のための調査(肥育農家)							
・中讃地域から出荷される素牛の購入意向(一部助成時)							
購入しない	未定	購入する	希望頭数				
			H26	H27	H28	H29	H30
3戸	4戸	16戸	141	146	150	154	157
・肥育素牛に求められる血統、購入月齢、発育状況等 →調査結果を検討し、改良方針を決定							
○市町への協力依頼							
組合事業への協力について、関係者と一緒に陳情 →各市町とも、前向きに検討							

視察研修会及び勉強会では、県共の枝肉審査や和牛改良講習会に参加し、格付け結果と実際の枝肉を比較しながら観察したり、最近の和牛改良の情勢と今後の和牛交配について、知識の習得を図った。

子牛市場では、10月と12月に組合員が出荷した子牛の体高・体重や販売成績を調査した。家保や普及センターが体測に協力して発育状況を調査し、販売成績については今後、JAが収集した情報の解析を実施する予定である。



6 まとめ

今回、中讃地域の和牛繁殖農家 19 戸からなる中讃和牛改良組合が設立し、平成 25 年度は今後の活動の基礎資料となる調査などを実施した。この結果をもとに「改良方針」を決め、平成 26 年度以降は「公益社団法人全国和牛登録協会に認定された組合」として事業を実施することとなる。

今後、「中讃和牛改良組合」が核となり、様々な事業を行っていくことで優良な肥育素牛を生産し、その子牛を中讃地域で肥育・出荷すれば「地域で生まれ育った、高品質なオリーブ牛」の増頭も実現する。そして、4年後の宮城全共に出品し、上位入賞を果たすことができれば全国レベルでの「オリーブ牛」の一層のブランド化の推進や、香川県・中讃地域の知名度向上が図れると考えており、家保も関係機関と共に組合をサポートしていく予定である。